



みせん

瀬戸内海国立公園

宮島地区パーク

ボランティアの会

第49号

発行日

平成 24年 9月 1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| P2 「ラムサール条約湿地」登録の意義と私たちの役割 | P7 自主研修会「宮島の植物から見た生物多様性」 |
| P3 公募観察会① 砂防ダムと弥山登山道 | P8 極楽寺山のキノコ・嚴島神社前海浜清掃 |
| P4 入浜定点観察②・③ | P9 吳やまと分団体験学習会 |
| P5 入浜定点観察④ および維持管理作業 | P10 宮島二流記（その12） |
| P6 入浜観察⑤および維持管理作業 環境の日ひろしま大会・貝がらさがし | P11 宮島クリーン作戦・自然公園クリーンデー・編集後記 |



“みやんぼー”は広島県の環境情報サイト
“ecoひろしま”のマスコットキャラクターです
広島県の希少な野生生物「ミヤジマトンボ」を
イメージしています
(関連記事はP2に掲載)

「ラムサール条約湿地」登録の意義と私たちの役割

日 時 8月5日(日) 13:00~14:30
場 所 宮島市民センター(旧宮島中央公民館)
講 師 環境省 柴原 崇 自然保護官
参加者 小方(嗣) 小川 川崎 河村 北野
黒木 五石 小林ペア 小林(寛) 佐渡
佐藤(佐) 末原 兎谷 中道 平田(攻)
平田(広) 弁田 松尾 村上 山崎 山本 横路
環境省 楠自然保護官 大高下 AR

この度：2012.7.3 宮島の南西部沿岸が「国際的に重要な湿地・ラムサール条約湿地」に新たに登録されました。早速、柴原自然保護官を講師に、登録の意義とパークボランティアの役割について勉強会を催しました。

(勉強会での質問に関する講師のご回答を7ページに掲載しています。)



勉強会

ラムサール条約とは：1971年、イランのラムサールで、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択されました。これがラムサール条約です。生物多様性の保護に係る国際協力のひとつです。日本は1980年に加入、現在162国が加入しています。登録基準に合致した「ラムサール条約湿地」は、現在、世界で2,040箇所、日本では、宮島を含む今回の新規登録9箇所をあわせて46箇所。中国地方では、中海、宍道湖、秋吉台地下水系および宮島の4箇所です。

宮島の登録基準は、「絶滅のおそれがある種や群集を支えている湿地」等に該当。登録後はミヤジマトンボの成育環境の保全とさらなる改善が求められます。

宮島の登録湿地の特徴：宮島の南西部海岸には瀬戸内本来の自然海岸が今でも手つかず



で残されています。

ラムサール条約湿地として登録された湿地は、宮島南西部の沿岸（内侍岩あたり～青海苔浦あたり）142haで、山間部からの湧出水と大潮時に流入する海水とが混じる潮汐（汽水）湿地が形成されています。この湿地には、他のトンボの幼虫が生息できない、またそこでしか生息できない、宮島の固有亜種ミヤジマトンボが生息しています。同種のトンボは中国で1箇所確認されているのみです。

これからも：これまで弥山原始林などの自然林に比べて、あまり注目されていなかった宮島の潮汐（汽水）湿地があらためて取上げられたことは、入浜海岸・汽水池の自然観察と維持管理を継続的に行っているわたし達にとっても大変嬉しいことです。

宮島はこれまでの世界文化遺産と合せて国際基準のダブル登録地域*となり、これまでに増して国内外から注目されることでしょう。

そしてこれからは、観光・レクレーション・学習目的の来島者もさらに増え、ラムサール条約湿地等の保全活動や啓発活動の必要性も高まるでしょう。

わたし達ボランティアも、これまで通り地域の環境保全団体や行政と協働しながら、自然環境の保全や学習活動など身の丈に合った、やりがいのあるボランティア活動を地道に続けて行きたいと思います。

*ラムサール条約と世界文化・自然遺産とのダブル登録例は「屋久島」、「モンサンミッシェル」などがありますが、数少ないようです。

(村上 光春)

公募観察会①

砂防ダムと弥山登山道

日 時 6月2日（土） 9:00～15:30

天 候 曇

参加者 岩崎 小方ペア 小川 川崎 黒木

小林(観) 小林(寛) 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸)

島 末原 田渕 兎谷 富田 中道 錦織 野呂田

舛田 村上 山崎 横路 榊自然保護官

大高下AR 公募参加者32名

3月の公募観察会は雨で中止になりました。今回も梅雨が近づいたので、お天気が気にかかるつていきましたが、幸い薄曇りとなりました。

藤の棚近くで開会式を済ませたあと、中道さんによる宮島の歴史、文化の説明を聞きながら紅葉谷まで移動しました。紅葉谷では末原さんから「堰堤は16基あり、その中には登山道からは見えない堰堤もある。植物と一緒に堰堤の形式や整い具合も見ながら歩いて欲しい」との話がありました。

その後、4班に分かれアイスブレークを行ったあと、改めて出発しました。まず目に付いたのは、変わった花をつけ、性転換することでも有名なナンゴクウラシマソウやアオテンナンショウです。ちょっと失礼して仏炎包(仏焰苞)の中を拝見しました。

すぐそばの嚴島神社が管理する特設の水槽は、約千トンの水が常時貯められ、様々な工夫がなされていることを改めて認識しました。

新緑の季節の今、目立っているのは白い花です。野生のバラの中では大きな花をつけるヤマイバラ、大きな苞で虫を誘



新緑の中で

うヤマボウシ、雄木の花も雌木の花も小さくて可愛いソヨゴ、御鳥喰式の時に使われるホウロクイチゴも白い花を咲かせていました。

広島県では宮島以外では極めて稀なミミズバイも今回の注目植物です。宮島でも300m以上では急に少なくなります。獅子岩／弥山分れ

みせん (3)
の三叉路では、一般参加者がマツブサの太いツルを触ってコルク質を体感されていました。トサムラサキが着生したアカガシの巨木が見えると、すぐそこが弥山本堂です。

ここで昼食の後、山頂に登るグループと弥山本堂近辺を散策するグループに分かれましたが、再び合流し、大聖院コースを下山しました。

枯れたツガの大木を見上げると、着生したセ



セッコク

ッコク(石斛:ラン科)が白やピンクの花を咲かせていました。ラン類は美しいだけではなく、たくましい植物であることを確認しました。

5月、宮島に雪を降らせるといわれるクロバイ、弥山原始林が天然記念物に指定されるきっかけになったヤマグルマ、巨大な幕岩にはギボウシの大きな葉の横にピンクのササユリが可憐な花を咲かせていました。

平成17年の土石流により流出していた瀧宮神社は今年4月再建され、背後の白糸の滝は、巨石が崩壊したことにより雄大に見えました。約800年前、高倉天皇が平清盛らとこの神社を参詣した時の景色を彷彿とさせます。

サカキカズラの黄色い花と枯れた莢(さや)を見たあと、大聖院付近の2号砂防ダムで、末原さんから「このダムは、景観を考慮し、ここにあった自然石による石張りで仕上げたが、川幅がないのに高さがあるので紅葉谷庭園式砂防公園のようにいかない」という話がありました。昭和20年ごろの技術を求めるのはもう難しいのかな?と思いました。

下山は階段がたくさんあり会員のSさんが数えたところ、頂上から大聖院まで2,350段もあったそうです。盛り沢山の内容を詰め込んだ今回の観察会も予定通り15時半、大聖院横広場で解散しました。蒸し暑くて疲れもいつも以上でした。 (野呂田 恵子)

入浜定点観測②

前号に掲載できなかった記事です

【水生生物と鳥】

日 時：5月12日(土) 9:00～14:00

天 候：くもりのち晴れ

調査時気温：16.5～20°C

池 の 水 温：17～21°C程度

結果概要：

トンボ類の成虫はオツネントンボ、アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、シオヤトンボの5種が確認されました。ヤゴはアカネ属が多数採集され、多くがタイリクアカネとみられる比較的大型の幼虫(17mm前後)でした。また羽化直前のアオモンイトトンボの幼虫も採集されました。今年もまもなく入浜池に多くのトンボが飛び交うシーズンがやって来そうです。

このほかメダカ、チチブ、ベンケイガニ類の稚ガニ、マメゲンゴロウなどが採集されました。



写真上：春の代表種シオヤトンボ。♂は腹端近くまで白粉をまとう。翅の付け根の橙色もこの種の特徴。

写真右：羽化を控えたアカネ属の幼虫。



鳥類では、冬鳥が去り留鳥を中心にして12種が確認されました。池にはカルガモ、アオサギ、セグロセキレイが出入りし、周囲の林ではウグイス、ヤマガラ、ホオジロ、キジバトなどがさえずっていました。

(松田 賢)

入浜定点観測③

日 時：6月 30 日(土) 16:30～18:30

参加者：大西 小川 奥田 小林ペア 小林(寛)

末原 中道 幸田 松田



アオモンイトトンボ

6月19日の予定が雨天のため中止となり、再調査と言うことで6月30日の研修会後に、希望者により実施しました。

植物班は6月23日に六重部さんが池を時計回りと反時計回りで2周し、植物の状態(蕾、花、実)を記録しました。砂浜の岩場ではクサフグが200匹ぐらい産卵の為集まっていたそうです。

我々、水生生物、トンボ調査班は今回、夕方から調査することにしました。トンボの中には「黄昏飛翔性」の性質を持つ種があります。ユスリカなど夕方時に発生する小さな昆虫を食べに飛んでくるヤンマ類の仲間で、入浜ではカトリヤンマ、コシボソヤンマ、ギンヤンマなどです。

その習性を利用して出てくるトンボを確認するため、夕方時の調査としましたが残念なことに朝からの雨模様で今回は確認できませんでした。

池底には又マエビ、今にも羽化しそうなアカトンボのヤゴなどが見られました。松田さんのお話では、来月にはアカトンボが増えるだろうとのことでした。

ヒトモトスキの穂には綺麗なアオモンイトトンボが風に揺られながら留まっていました。カエルはツチガエル、トノサマガエルなどが見られました。

(小林 勝)

入浜定点観測④

及び維持管理作業

日 時 7月21日(土) 9:00~14:00

天 候 晴

参加者 大西 小方(嗣) 小川 奥田 川崎 黒木
小林ペア 佐伯 佐藤(佐) 兎谷 平田(広)
檜和田 松田 村上 柳瀬 山崎 山本 吉崎
六重部

梅雨もあけ暑い最中の清掃及び調査でしたが総勢 20 名の大人数となりいつものように班に分かれて行いました。

【維持管理作業班】

トラックが借りられなかったので砂浜と汽水地周辺の清掃作業を行いました。砂浜には相変わらず牡蠣パイプが流れ着いていました。汽水地周りは歩いてもさほど牡蠣パイプが目に付かないほどに減り、逆に小さな発泡スチロールが目立つようになりました。これも去年から集中的に収集作業をしてきたおかげです。



砂浜がえぐられた海水出入口

汽水地から海への水路は、末端の海への出口付近の砂浜が深くえぐられたようになっており、低い潮位でも海水が自由に出入りできるようです。人間の力では 50 人役ぐらいと見積もれます。自然の力はすごいですね！

これで汽水地の半分が淡水、残り半分が塩水となっており、ミヤジマトンボを迎えるには最適の条件が整いました。水路の紫外線対策用を使った土のう積みもしっかりとしており、これからはこちらにも力を入れていかねばと感じました。

ゴミ収集量は一般ゴミ 9 袋・牡蠣パイプ 11 袋でした。

(平田 広三郎)

【植物班】

いつものように「蓄 花 実」を記録しました。特にめずらしいものはなかった。どんな現象かわからないがハマゴウの花の咲き具合が非常に少ない。

【水質調査班】

今回の特徴は山からの流入が非常に多かつたこと。塩分濃度については、山側は 0.00%、出口側は 0.03% C O D は全体的にほぼ数値は 5 ppm ぐらいで部分的には高い所もありました。

【野鳥班】

ミサゴ、ウグイス、アオゲラ、ハクセキレイ、コゲラ、トビ、カワラヒワ、シジュウガラ、メジロ、特にホオジロの雛が水浴びをしていたのが微笑ましかった。

【昆虫・水生生物班】

トンボについては 8 種類、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、チョウトンボ、コオニヤンマ、クロイトンボ、ムスジイトトンボ、もうすっかり夏のトンボ族ばかりです。ハマゴウの花粉だけを集めて子供に餌を与える白くて非常にきれいなキヌグハキリバチがたくさん飛んでいました。このハチは 5 月に改定された広島県 R D B に新たに準絶滅危惧種に指定されたそうです。



キヌグハキリバチ

良好な海浜環境だけに生息するヤマトマダラバッタ（絶滅危惧種に指定されている）の幼虫



ヤマトマダラバッタ

も確認しました。もう 1 種類「鳴き虫の女王」とい

われるコオロギの仲間のカンタンという昆虫も見ることができました。和名は中国の古都鄆鄆から来ている。日本には「鄆鄆の夢」という物語が伝わってから名付けられたといわれています。その美しい鳴き声や短い寿命を栄枯盛衰の夢に例えたのです。 (小林 勝)

入浜定点観測⑤ 及び維持管理作業

日 時 8月18日(土) 9:00~13:00

天 候 晴

参加者 小方(嗣) 小川 恩田 川崎 小林ペア
佐伯 末原 中道 檜和田 松田 村上 柳瀬
山崎 横路 吉崎 六重部

【水質・水量】小川さんの報告

今夏は雨が多かったせいか、山からの伏流水が湧き出て池に流入している。池中央の塩分濃度は0.02%、池の奥のCODは5ppmでした。山水の流量は7月の6~7割程度。

【植物】六重部さんのお話

池の周囲については特記事項はないが、鷹ノ巣高砲台から入浜への道路脇のカンザブロウノキの花がいっぱい咲いていて、例年に比べ異常に多いようだ。

【昆虫】松田さんの報告

以下のトンボ6種を確認した。ギンヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、オニヤンマ、オオシオカラトンボ、アオモンイトトンボ。ヤマトマダラバッタが成虫になっていた

【維持管理作業】

水路のゴミさらえ、海浜のゴミ拾いなどを行った。粒状化した発砲スチロール、牡蠣のパイプなどいつものとおり際限なく流入している。収集したゴミは70kgだった。

【貝がらさがし】

上記作業終了後、小方さんのご指導で、全員で砂浜の貝がらをさがした。わずか15分程度でしたが、注目の20種のうちのツメタガイとムラサキイガイを確認しました。

「環境の日」ひろしま大会

日時：6月3日(日) 10~16時

場所：県庁前広場

“エコ もっと～もっと楽しく、もっと身近に～”を合いことばに、今年も恒例の「環境の日ひろしま大会」が開かれました。

当会は、環境省広島事務所のブースに、ボランティア活動のスナップ写真や「新宮島八景」を載せたポスターを掲示し、宮島での活動の様子を紹介しました。

約40の企業や団体がブースを並べ、環境問題への取組み紹介や低炭素自動車などの環境配慮商品の展示、エコグッズが当たる環境クイ



ズラリー、子供神楽やエコレンジャーなどのステージイベントで終日賑わっていました。

県民一人ひとりの環境意識は年々高まり、これに合わせ「環境の日ひろしま大会」も年々来場者も増え、賑やかになってきました。

(村上 光春)

貝がらさがし

(財)日本自然保護協会の主催で、海辺の自然の様子を知る手がかりとするため、貝殻の写真を撮って、調査票とともに日本自然保護協会に「郵送」・「Webの投稿フォーム」または「メール」で送る活動が行われています。期間は2012年7月1日から9月30日までです。詳しくは www.nacsj.or.jp/ を参照するか、村上会長、舛田副会長または小方会員にお問い合わせください。



「みせん」次号は50号

平成12年に創刊した「みせん」も皆さんの協力で12月に50号を発行することになりました。

50号は記念号として会員の皆さんの「PV活動への思い、楽しかったこと、苦労話などを掲載します、5~600字でまとめてください。

多くの会員の投稿を期待しています。

原稿締切 9月末
発行日 12月1日

自主研修会 宮島の植物から見た生物多様性

日 時 6月30日(土) 12:30~15:45

場 所 広島大学大学院理学研究科付属
宮島自然植物実験所

講 師 副所長 坪田 博美准教授

参加者 池田 岩崎 大西 小川 奥田 恩田

川崎 河村 北野 小林ペア 小林(寛) 坂本
佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原 兎谷 中道
錦織 野呂田 夷田 松田 村上 山本 横路
六重部 柴原自然保護官 大高下AR

小雨が降るなか29名の参加者があり、座学の後のフィールド観察時には、晴れ男・晴れ女が沢山おられたのか、運よく雨も上がり、楽しい一時を過ごす事ができました。

広島大学の坪田先生のお話は、大学の講義形式との前置きはありましたが、かなり分りやすい説明であったのかなと感じました。

生物多様性という言葉が認知されたのは、2000年頃からとの事でしたが、自分の中では特に違和感なく聞いていたので、意外に思いました。

生物多様性の説明の中で、印象に残った事は、
①植物には全く同じものがあるが、人間には同じ親から生まれても全く同じ人ではないと
②ホットスポットは地球上に10箇所程度あることでした。



座学

また、生物多様性を脅かす要因として、9割は人間が絡んでいるとの説明には、人間はなんと愚かなものかと思いました。にもかかわらず、人類が存在していくには、生物の多様性が不可欠であるとは、どのように受け止めたらいいのでしょうか？

絶滅危惧種の項目のなかで、絶滅危惧種と珍しい種は似て異なるものとの説明には少し驚きました。

外来生物の項目のなかでは、ここでも人間の

みせん (7)

活動の影響によるものもあるとの事で、個人レベルではなく、社会レベルでの行動が必要と感じました。渡り鳥は外来生物ではない事に、すこしほほえましい感じを抱きました。

また、外来生物による遺伝子汚染が一番厄介との事で、めだか等の放流も遺伝子汚染につながるという話は少々ショックでした。

最後に宮島の植物の話のなかでは、鹿と共に存してきた歴史があるという重みのある説明があり、今後、宮島に関わっていくには、宮島の生態系をきちんと理解していく事が重要だと思いました。 (兎谷 清博)



フィールド観察

「ラムサール条約」勉強会での質問の回答

勉強会での質問事項につき、講師の柴原自然保護官から以下のご回答を頂きました。

質問：2005年にウガンダ・カンパラで行われた締結国会議(COP9)で基準が3つから9つに増えた経緯と日本での増加数は？

回答(柴原自然保護官)：経緯については1999年のコスタリカ サンホセで開催の会議で、湿地は生物多様性と生産性に富んだ場所であり、人類の生存にとって重要な場所であることを認識し、その喪失を防がなければならぬとして、短期的目標として2005年までに登録湿地を倍増することを目標としました。

これを受けて基準の見直しが行われました。日本では2005年の新基準に照らし13か所から同年には20か所追加と劇的に増加しています。

有志による 極楽寺山 キノコ観察

日 時 7月 7日(土) 9時～14時

参加者 岩崎 奥田 川崎 北野 小林ペア

兎谷 錦織 野呂田 夷田

キノコのできる7月初めの時期はいつも雨。今回も前日の大雨雷雨の尾をひいて朝の天気予報の降水確率は50%。よってPV(パークボランティア)の会の公式行事としては中止となった。しかし、朝から雨はあがり天気は回復に向かっていて極楽寺山に集合したものは10名。有志による観察会として予定のコースを歩いた。

PVの会としては昨年に引き続き2回目、私個人としては今年で4年目となるウスキキヌガサタケ観察である。

毎年見頃の時期が微妙に異なり昨年(7/9)はハズレの1本のみ(一週間後が最盛)。今年は丁度の時期に巡り合ったのではあるが、残念なことに昨夜の大雨によって流れ落ちる雨水が斜



無残な姿のウスキキヌガサタケ

面の群生を無残にも押し倒していた。その数およそ80本余りの多さ。今年は意外と尾根道には少なく、北斜面に群生していた。懸命に生き残ったものも有り、この朝30分ほどの間に徐々に背を伸ばしスカートを広げていくのを見ることができたのは感動的だった。

タマゴタケの方は蛇の池周辺で2カ所確認できたが、午後戻ってくると無残にもがれていた。その後江戸時代の坪井村の灌漑水路と溜池である牛池を見学し、さくらの里に回って、蛇の池に戻った。

3日後の7/10にも極楽寺山に登る機会があり、

再度同じ場所に行ってみたが、ウスキキヌガサタケは、たまご状のものは有るもの当日でたものは無く、最盛期は終わった模様。タマゴタケはテント18付近で多く見ることが出来た。(下のタマゴタケ写真は7/10の撮影のもの)

ウスキキヌガサタケは9月中旬にも出ることなので引き続き観察に出向いたいと思っている。



ウスキキヌガサタケ



タマゴタケ
(岩崎 義一)

嚴島神社前海浜清掃

日 時 8月 2日(木) 13:00～15:30

参加者 大西 恩田 川崎 河村 菊村 小林(勅)

佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原 富田 中道 錦織

平田(広) 檜和田 山崎

猛暑日が長々と続く中、熱中症に気をつけて海浜清掃(4回目)を実施しました。

13時に宮島支所藤棚下に集合し、嚴島神社前にて神社側より作業範囲の説明の後、PV15名、神社側10名程度で御座船まわり、能舞台前と手分けして作業にはいりました。

作業は順調に進み、アオサの量も例年よりも少ないと、昨年参加された方が言われていました。約2時間あまりで



作業を終えることが出来ました。

作業終了後、回廊を神社の方の案内で説明を受け、本殿前で全員がお祓いをうけ参拝を済ませました。神社より大変感謝され、来年もよろしくとのお話をしました。

今日の皆様方の力を合わせての作業を終えて、気持ちよく8月4日の『管絃祭』を迎えられます。猛暑の中での作業、皆様ご苦労さまでした。

(錦織 誠)

呉やまと分団 体験学習会

※呉やまと分団とは、団員数 63 名、本拠地は大和ミュージアムで、日本宇宙少年団（理事長；松本 零士 団長；毛利 衛）の呉支部。

自然観察が活動の一部にあり、体験学習として「宮島の自然」を知りたいと環境省に依頼があり、今回の対応となった。

日 時；7月 26 日(木) 12:50～14:00

場 所；大元公園

参加者；大西 小川 恩田 川崎 河村 黒木

小林(勲) 小林(寛) 中道 錦織 野呂田

舛田 村上 山崎 環境省大高下 AR

夏真っ盛りの猛暑の中、小学 4 年～中学 3 年総勢 46 名と付き添いのスタッフ 7 名が大元公園にやってきました。午前中には、楽しい♪・楽しい♪”宮島水族館めぐり”、おいしいお弁当も食べ、食後の元気いっぱいお遊びも終了。やってくるメンバーに「ここにちは！」とあいさつを入れるが、無言/無表情である。(この時点、惰性の行進の様相)アイスブレイクで解きほぐそうとするが、半数は体が重そうで「座りたい」と小言を言う。

そして鹿のスケッチに突入。やる気ないかな？と思ったが皆真剣なまなざしで取り組んでいる。話としては、”反芻行為～鹿の食べ物～胃の内容物消化～死に至らしめる事あり”

の展開

だが、鹿

そのも

のに注目がいっているので行為に関心がない・・・。ところが反芻行為のスケッチが辛うじてあった！(と思いきや P V のスケッチで、その後誘導尋問のごとく事が進んでいったのである。う～ん読みが深い。)

Q & A コーナーで鹿は、「お菓子や紙を食べる」に手を挙げた子が半数以上いた。(しめしめ)。そして「シカを救うのはわたしたち」



“反芻”の意味説明

（ 9 ）
の紙芝居が始まる。おKちゃんの語り口調が心地良く、みんなを紙芝居に引き込んでいく。瞬き一つしない。(目を開けたまま寝ているのでは？と思うぐらい～すっご過ぎる！)



シカの紙芝居

紙芝居の後に先程の Q & A を行うと、お菓子に手を挙げたのが 1～2 名でとても理解していた。(寝ていたのではない)ここでコゲちゃんのフォローが、「お菓子食べられるよね。でも人はお菓子だけ食べて包み紙は残すけど、鹿は全部食べちゃうよ」とあり、な・る・ほ・どっと納得する。(今更私が学んでどーする) 呴嗟に手を挙げてしまった子はきっと、「自分はお菓子大好きだから、鹿もきっと好きなはず」と優しさのあまり手を挙げたに違いない。という事にしておこう。

胃の内容物や骨の実物観察では、活発な意見交換があった模様。話を聞くだけより、実際に触れると興味が湧いてくるものであり、実物の準備があったのも心憎い演出でした。中には骨や歯を持って帰る（持って帰ってどーする？）と困らせる子もいたが、家族に今日感じた何かを伝えたいのであろう。その根拠として、最後に「シカを救うのはわたしたち」の冊子をプレゼントすると、シゲシゲと中身をチェックする子が大半で、心なしか満足げな顔つきとなっていた。きっと今日のことを家族にも伝えてくれ、鹿とのいい付き合い方のすそ野を広げてくれると確信している。

スズメバチの襲撃もなく、将来宇宙まで行ってしまいそうな少年達との触れ合いを、安全に終えることができ有意義な一日であった。

（ 小林 寛致 ）

【クイズ：文中のニックネームは誰でしょう？？】

宮島二流記

(その 12)

平田 広三郎

Q 12 : 「平家物語と宮島とのかかわりはどのようなものだったのでしょうか？」

平家全盛の頃、厳島神社関係者は都人達の厳島への来島を歓迎していましたが、しかし都の貴人達はどのような思いで厳島に来たのでしょうか。「平家物語」の中からの二つのエピソードから読み取って見ます。

A 12 : 「時の権力者 平清盛に阿（おもね）いての厳島行きだったようです。」

一つは、宮島の「内侍岩」にまつわる厳島神社の巫女・有子内侍の悲恋の相手 徳大寺実定卿（さねさだ・じってい・平家琵琶ではシッティイノキヨウと清音で語る）のことで、小倉百人一首八十一番「ほととぎす 鳴きつる方（かた）を眺むれば ただ 有明の月ぞ残れる：後徳大寺左大臣」の作者のことです。後とあるのは祖父の実能（さねよし）と区別するためです。

「平家物語・巻の二（徳大寺の沙汰）」には、大納言実定卿は清盛の長男重盛が左大将に、次男宗盛が右大将にと、兄弟で大将を独占したときには、宗盛に越えられ、その後は三男知盛・嫡孫維盛がなり自分はなれないと思い出家を決意したのですが、家司（部下）に勧められたいつわりの出世祈願である厳島詣でに、清盛が感激して左大将にしたとあります。

それでは大将になれないことは出家を覚悟するほど嘆き悲しむことなのか考察して見ます。鎌倉時代初期の「官職秘抄」によれば平安末期の大臣（太政・左・右・内）昇進の条件は、「大納言の中、近衛大将を兼ね、春宮坊官（皇太子の後見役）を歴（ふ）る。ならびに一世源氏、二世孫王、執柄（しつpei：摂政関白）、大臣の子息など、これを任す。」とあります。従って大臣への昇進を願う実定卿にとって大将になることは悲願だったというのが「巻の二」の筋書きです。

しかし史実では左大将・内大臣になったのは治承元年（1177）、厳島に行ったのは治承三年（1179）のこと、最終的には左大臣まで昇進しています。父公能（きんよし）が左大

臣、姉が第七十九代六条天皇の准母であったことや徳大寺家が摂関家に分家ながら繋がっていたことを考えれば当然成れたはずです。

この章は清盛を悪者にするための作為の物語なのです。

実定卿の人となりは、「平家物語」にはこのほか度々登場しますし、「徒然草（作者：吉田兼好）・第十段」にも書かれ、後白河法皇・源頼朝にも気に入られ、皆に愛された才人・歌人だったようです。

もう一つは、「平家物語・巻の四（厳島御幸）」の高倉上皇（第八十代天皇）の御幸（天皇の場合は行幸）のことです。治承四年（1180）高倉天皇は二十歳で帝位から降りられ、わずか三歳の東宮（のち壇ノ浦で入水された第八十一代安徳天皇）に天位を譲られた。これは清盛が高倉天皇と己が娘徳子（のちの建礼門院）との間に生まれた孫を早く天皇にして外祖父になり、政治の主導権を握りたいとの思惑からです。

この時期の政治情勢は、着実に権力を掌握した清盛が、後白河法皇（法体した上皇）の政治手法と対立し、治承三年には法皇の権力を封じるため、法皇を鳥羽殿に幽閉し、院政を停止させています。

天皇退位後の最初の諸社への御幸は石清水八幡宮・賀茂神社・春日大社がしきたりだったのですが、平家のあがめる安芸の厳島への御幸は、清盛と後白河法皇との仲を心配された新上皇が、山門（延暦寺、興福寺等）の反対を抑えての苦渋の決断だったようです。この時の様子は「高倉院厳島御幸記」に詳しく書かれていますが、上皇は神主・佐伯景弘から神社の由来を聞かれ、景弘を従五位上に位階昇進させています。この章は悲劇的な内容ですが、新上皇に同情的に書かれています。この年、再度厳島に来られていますが、無理がたたったのか翌養和元年二十一歳で亡くなられました。

次回 Q13 は「神主・佐伯景弘の生き様はどのようなものだったでしょうか？」です。

*参考文献

- ・「平清盛の闘い」 元木泰雄
角川ソフィア文庫 平成 23 年
- ・「百人一首故事物語」 池田弥三郎
河出文庫 昭和 59 年

宮島クリーン作戦

日 時 6月 10日(日) 9:00~14:00

場 所 燃山浦

参加者 (主催者側スタッフとして参加した方を含む) 岩崎 恩田 金山 川崎 河村 北野 五石 小林(対) 渋谷 末原 兎谷 富田 平田(攻) 平田(広) 松尾 山崎 横路 吉崎 呼坂 樺自然保護官 大高下 AR

NPO 自然環境ネットワーク SAREN 主催の行事に参加し、燃山浦に漂着した大型発砲スチロール製浮きの収集を行いました。漁協など各方面からの参加者とともに海岸の奥の林まで入り込んだ浮きを担ぎ出し、すぐに集積場をいっぱいにしました。



回収した発砲スチロール製浮き

自然公園クリーンデー での清掃活動

日 時 8月 5日(日) 9:00~12:00

場 所 小なきり浜他 (下記)

参加者 池田 小方(嗣) 川崎 河村 五石
小林ペア 小林(対) 佐渡 佐藤(佐)
渋谷 末原 田中 兎谷 中道
平田(広) 舛田 宮本 柳瀬 横路
環境省 樺自然保護官 大高下 AR

毎年8月第1日曜日に全国一斉に行われる「自然公園クリーンデー」にあわせ、今年も宮島公園の清掃活動が実施された。宮島桟橋前広場には、当会員、環境省、宮島を美しくする会7名、市民1名、市職員6

名の計36名が集まった。主催者側から熱中症についての注意、シカの保護管理対策などの説明のあと、当会員は、①うぐいす道～紅葉谷方面、②杉之浦方面、③包が浦方面、④小なきり浜、⑤宮島桟橋でのゴミ持ち帰り啓蒙活動の5グループに分かれ清掃活動を行った。暑い中ではあったが、みんな手慣れた様子で作業し、予定通り午前中で終了した。集めたゴミは市役所の方に収集して頂いた。ごみ収集量は、総計115kgだった。



開会あいさつ

◇ 編集後記 ◇

▼本号に掲載した行事は主として6月始めから8月末中の行事である。この期間中は竜巻、豪雨、洪水、猛暑など自然の脅威に改めて恐怖する毎日であった。しかし、自然に怯えるだけでなく、自然と共生し、入浜池の保全・再生とワイルドユース(賢明な利用)を追求したいものだ。(川崎)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島桟橋2階)

※宮島詰所の電話とFAXを使用頻度が少ないため、8月から休止しました。